

## 東京 IPO 特別コラム

---

2016年1月8日 Vol.1 1

### 2016年の株式相場は波乱の幕開けだが・・・

謹賀新年

旧年中は本コラムのご愛読を賜り心より御礼申し上げます。本年もご愛読宜しくお願い申し上げます。

2016年の大発会は波乱の幕開けとなり、大発会から本日までの5日間が下落の連続となったことで投資家の皆さんの警戒感が強まっています。NYダウの調整に円高進展と中国経済の先行き不透明感が重なり、海外株安の連鎖が昨年8月の大幅な調整時と同様に起きてしまいました。こうなると年初で盛り上がると思われた積極的な投資家の買いは慎重な姿勢に変わり、どこまで下がるかを見極めをしようと構える投資家も増えますので下値を試そうというムードが台頭せざるを得ないこととなります。IPO市場に目を転じると全体市場とほぼ同様の動きではありますが、マザーズ指数が大発会ではプラスとなったように個別株にはむしろ年初ということもあって一時買い意欲が高まりました。ところが、日経平均が下値模索の動きとなると、一気にその氣勢がそがれてしまいました。こうした相場の動きを冷静に眺める投資家の皆さんにとってはチャンス到来とポジティブにお考えの方も多いと思います。

2015年にIPOした銘柄は92社となり、前年に比べ大きく増加しましたが株価が公開価格を下回る銘柄がこのところ多くなっており、需給の悪化が影響し始めていると感じられます。特に12月のIPO18銘柄のうちビジョン(9416)やフリュー(6238)、ケイアイスター不動産(3465)、一蔵(6186)など直近の株価が、既に公開価格を割り込んでいる4銘柄をはじめとし、初値からの株価の大幅下落を見せる銘柄なども含め、需給悪化が懸念されます。とは言え、赤字転落などの事象はともかく、きちんとした収益を上げていける企業価値の高い企業が大きく売り込まれた局面では投資のチャンスが訪れます。

まずはIPOしたばかりの会社は企業の実態が投資家に十分伝わっていないためか、誤解された評価を受けている可能性があります。一方では実際にはそれほど価値が醸成されないままIPOを果たして投資家の信頼を裏切るケースも出て参ります。IPOしたての個別銘柄には需給が影響しがちですが、3か月から6か月も経過すれば、その実態もよくわかるようになると見られます。

私も2016年は2015年にIPOした銘柄の実態を大いに調査したいと思います。今月はリンクバル、SLDとの個別面談を予定しています。面談をすることで企業の実態を把握し、本コラムでもご紹介できれば幸いです。年初の調整局面が皆様の投資にむしろチャンスとなることを祈願しております。また、2016年に登場するIPO企業がどのような話題と関心と呼ぶのか皆さんとともにウォッチしていきたいと思っております。本年も宜しくお願いします。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)